



独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

発達障害教育情報センター

発達障害のある子どもを支援するための教育情報を発信しています

『「ことばの教室」担当者の言動と保護者の受けとめ：担当者と保護者のおもいの比較（平成16年3月）」より

【9】保護者とのかかわりにおいて担当者が大切にすべきこと

キーワード：保護者支援、ことばの教室、乳幼児期

【この研究では】

「ことばの教室」担当者は、保護者とかわる際にどのような対応をしていて、自らの言動をどのように認識しているのでしょうか。また、保護者はその言動をどのように受けとめているのでしょうか。これらの点を明確にすることで、実践場面における保護者と担当者とのかかわりをスムーズに進めていく手がかりが得られるのではないかと考えました。

そこでこの論文では、担当者と保護者が感じている「おもい」を明らかにし、担当者が保護者とかわる際の配慮事項を明らかにすることを目的としました。

■研究の方法

2つのアンケート調査を実施し、その結果から、担当者と保護者が感じている「おもい」を比較しました。

調査1：担当者の言動に対する担当者自身の「おもい」についての調査

実施時期；平成13年7月

対象；「通級による指導」指導者講習会の言語障害教育コース受講者 55名

調査内容；「保護者との話し合いの中で傷つけてしまった言動」「保護者との話し合いの中で励ますことができた言動」等について自由記述で回答

調査2：担当者の言動に対する保護者の「おもい」についての調査

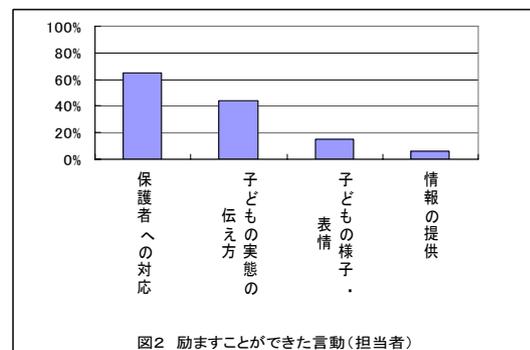
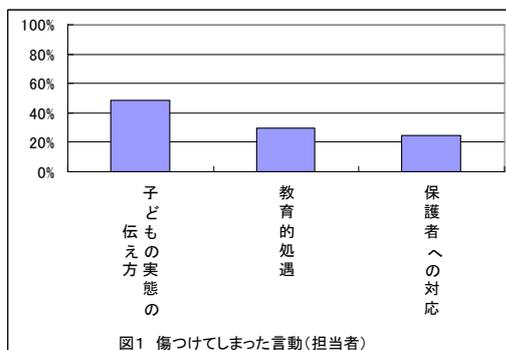
実施時期；平成13年9月

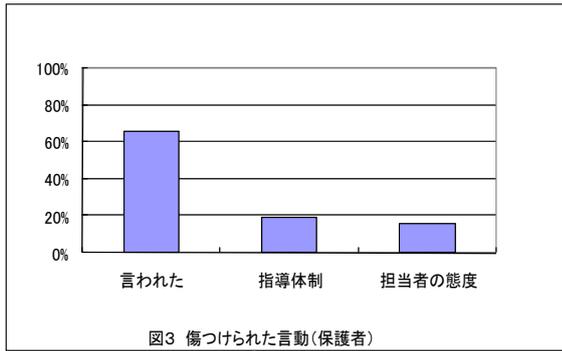
対象学校数；7校（東北地区1・関東地区3・近畿地区1・中国地区2）

回収数；126通（回収率；48.5%）

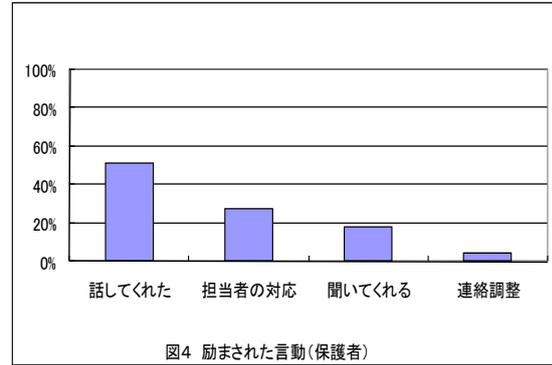
調査内容；「担当者との話し合いの中で傷つけられた言動」「担当者との話し合いの中で励まされた言動」等について自由記述で回答

【研究をして見えてきたこと】





【傷つけられた言動】
言われたこと（子どもの障害や実態、将来について、保護者自身のこと）／指導体制（指導形態・内容について、担当者の交代）／担当者の態度



【励まされた言動】
話してくれたこと（子どもの良い点・成長・見方、保護者への励まし・助言）／担当者の対応（保護者に対する態度、子どもへの接し方や指導）／聞いてくれたこと（保護者自身の話、子どもに関する悩み）／連絡

■この論文の提言

- 1 保護者のおもいを受けとめた支援
 - ①これまでの保護者の姿勢を認める
 - ②保護者と担当者との間で方針を確認する
- 2 家族を視野に入れた対応
- 3 適切な情報提供
 - ①保護者同士の交流から
 - ②担当者から

保護者とのかかわり

情報を通してお互い（担当者と保護者）が様々な認識を共にしていく過程

失敗しないマニュアルはない。
保護者の声を真摯に受け止め、
実践を通し担当者の感性を高めていくこと。

【研究に関する情報】

- ・久保山茂樹・小林倫代・佐藤雅次（2003）：「ことばの教室」における保護者とのかかわり（1）－全国調査から見たかかわりの実態－、日本特殊教育学会第41回大会発表論文集。
- ・佐藤雅次・小林倫代・久保山茂樹（2003）：「ことばの教室」における保護者とのかかわり（2）－担当者に対するアンケート調査から－、日本特殊教育学会第41回大会発表論文集。
- ・小林倫代・久保山茂樹・佐藤雅次（2003）：「ことばの教室」における保護者とのかかわり（3）－保護者に対するアンケート結果から－、日本特殊教育学会第41回大会発表論文集。

【研究組織】

小林倫代・久保山茂樹・佐藤雅次（所外研究分担者）

【研究論文名】

「ことばの教室」担当者の言動と保護者の受けとめ：担当者と保護者のおもいの比較

【もっと詳しくお知りになりたい場合は】

この論文は、研究所webページにて全文掲載されています。
<http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/kiyomokuji31.html>
 関連する研究（「ことばの教室」における早期教育相談と保護者支援：平成16年2月）も全文掲載されています。
http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_b/b-174.html

【本研究紹介シートの文責】

小林倫代・久保山茂樹

本研究紹介シートは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で行った研究を基に作成しています。